

活動： JICA タイ国立衛生研究所プロジェクトの北タイランパン病院 HIV コホート研究

期間： 1999 年 ～ 現在（有吉紅也, 吉田レイミント, 土屋菜歩, 森正彦）

タイにおける HIV に対する免疫応答のメカニズムの研究

1990 年代後半からの抗 HIV 薬多剤併用療法の普及により、AIDS による死亡率は改善を認めましたが、同時に一生に渡る服薬管理、耐性型の増加、感染者の蓄積による病院・医療制度・医療従事者の受容の限界など新たな問題が生じています。HIV を根治する薬剤・ワクチンの開発が急務です。我々は北タイにおけるコホート研究の一環として、HIV 感染者における細胞障害性 T 細胞を介した免疫応答のメカニズムの解明を研究しています。HIV 感染細胞に対する細胞障害性 T 細胞の免疫応答が疾患の予後を決定することはこれまで動物モデルで広く知られており、ワクチン開発への鍵となります。

また現地スタッフとの研究計画の打ち合わせ・実験手技の指導を通じ、本研究は医学・学問的な貢献だけでなく、人材育成・技術供与など地域への貢献・還元を通じた国際貢献を目指しています。



タイ保健省研究室のスタッフと。黄色のシャツは毎週月曜日、国王への敬意を表し、着用しています

実験室にて



北タイランパン病院にて、毎年新年に
HIV
コホート参加者を対象にタイ人スタッフ
が啓蒙活動を行っている

現地スタッフによるデータ管理チームが
コホート参加者のデータを入力している





タイ人看護師がコホート参加者より、定期的に血液サンプルを採取している

タイ人ラボラトリーテクニシャンによる患者血液検体の冷蔵保存を指導



本研究と一緒に運営するタイ国立衛生研究所

カウンターパート（左）とランパン病院
カウンターパート（下）

